

1882年4月6日、日本の自由党の創始者である板垣退助は、この岐阜城の近くで暗殺未遂に遭った。演説が終わり会場を離れようとしたとき右翼の闘争員相原尚襲に27センチの短剣で刺された。相原は板垣の左胸を刺した。板垣も抵抗したが右胸をもう一度刺された。警官が加害者を鎮圧し逮捕する前に、板垣はさらに手と左頬に怪我をした。相原の攻撃中、板垣は「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだと言われている。